

生活指導便り

令和6年3月1日（金）
江戸川区立鎌田小学校
生活指導だより ⑬
校長 石渡 靖
生活指導担当 橋本

生活指導は学習指導の縁の下の力持ち！

生活指導だより⑫では、次の学年に向けてしっかりと身に付けておく授業が分かりやすくなり、学習への意欲の高まりが期待できる国語と算数の内容についてお知らせしました。また、漢字を覚えるコツについてもお知らせしました。今回は、算数について大切なことをお知らせします。

次の学年まであと少しとなりました。1年間のまとめの時期です。今の学年の学習内容を定着させることが次の学年の1番有効な準備になります。家庭でもお子様の様子を確認ください。

中学受験の時期が終わりました。

私は6年生の担任の時には、受験が終わった時期に「行く学校が重要なのではなく、行った先で何をするかが大切」と話します。どんなに有名で一般的に良いといわれている学校に行けたとしても、行けることに安心して勉強や努力をしなくなってしまうと、成長は止まってしまいます。受験を経験しなくても、行った学校の活動に一生懸命に取り組むことで成長でき、高校を決める時には、学力などの成長の度合いが逆転しているかもしれません。このことから「行く学校が重要なのではなく、行った先で何をするかが大切」と考えています。そして、「勉強を頑張る」「部活を頑張る」「習い事を頑張る」というように何かに絞ってしまうよりも、できる範囲でチャレンジしていくことが大切だと考えています。それを支えるのは、小学校の学習の基礎基本だと思います。

できない・苦手＝努力不足＋できるようになるコツがわからない

生活指導だよりの⑥・⑦でお伝えしましたが、できるようになるには本人の努力が必要です。子供たちは、クロールや平泳ぎがどんな泳ぎ方か知っています。しかし、知っているだけでは泳ぐことができません。泳げるようになるまで練習が必要です。また、泳げるようになってタイムを上げるにはさらなる練習が必要です。これと同じように、計算をする能力は、教科書の問題やドリルなどの問題を継続的に解かなければ伸びません。計算ができないのは、練習不足であることが多いです。練習不足なので、コツもつかめない状態であるといえます。算数にもできるようになるコツがあります。少しでも今の学年の学習内容は今の学年のうちにコツをつかんで、できるようにしておくと思います。

<1年生の算数について>

1年生の算数は、細かいところを抜きにして考えると駄菓子屋で買い物ができれば大丈夫です。例えば、このような問題です。

100円玉1枚をもって駄菓子屋に行きました。25円のアメと35円のチョコレートを買いました。おつりはいくらですか。
式 $100 - 25 - 35 = 40$ 答え 40円

このような問題は、生活経験があることで計算の手助けになることが多いです。

また、式は様子・考えを表す大切なものです。

公園に子供が10人遊んでいます。あとから何人か来て15人になりました。という問題の式は $10 + \square = 15$ です。

公園に子供が何人か遊んでいます。あとから10人来て15人になりました。という問題の式は $\square + 10 = 15$ です。

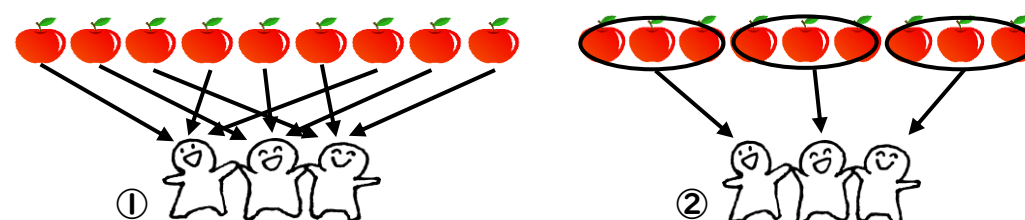
両方とも答えは5人ですが、式は問題の様子を表すので上記のようになります。この違いを理解することがとても大切です。

<2年生以上の算数について>

2年生以上の算数では、かけ算の九九を理解していることがとても重要です。かけ算の筆算をする場合、桁数がどれだけ増えたとしても使うのは九九です。また、わり算をするときも使うのは九九です。また小数や分数、他にも面積や体積などで計算をする内容では、すべて九九を使います。そのため、かけ算の九九は問題を見た瞬間に頭に答えが浮かぶことが理想です。

<わり算について>

わり算では、イメージできるかどうか重要です。①9個のりんごを3人に同じ数ずつ分けます。1人分は何個になるでしょう。という問題と②9個のりんごを3個ずつ分けると何人に分けられるでしょう。という問題の式と答えは、 $9 \div 3 = 3$ で、同じですが意味が違います。図で表すとこのようになります。



紹介した内容がすべてではありませんが、知っているかどうかで理解度は変わります。

〇まとめ〇

3年生以上の算数を苦手としている子供は、ほぼ全員と言っていいほどかけ算の九九ができなかったり、できたとしても遅かったりします。九九ができないと今の学年よりも先の算数の時間が苦痛な時間になってしまいます。少しでも取り組んで、九九をできるようにしていくことが算数の1番のコツかもしれません。

